

# てるびっと

No. 10

2004.3

京都府海外研修KYOのあけぼの会

## 第15回 KYOのあけぼのフェスティバル2003

### 「時代を変える いま京都から あなたから」

平成15年10月18日(土)19日(日) 於京都府民総合交流プラザ

私たち京都府の女性が企画し女性のパワーとネットワークで盛り上げる「第15回KYOのあけぼのフェスティバル2003」が今年も成功裡に実施されました。

#### ● 1日目

「レッツ チャレンジ! 女性副知事サミット in 京都」と題して

#### 女性副知事サミットを開催

国内の女性副知事、滋賀県副知事 安藤よし子氏  
高知県副知事 吉良 史子氏  
福岡県副知事 稗田 慶子氏  
京都府副知事 佐村 知子氏 が参集



内閣府男女共同参画局長・名取はにわ氏をコーディネーターに迎え「女性のチャレンジ」を力強くアピールし、参加者達は感動を持って聞き入り、元気を頂きました。

#### ● 2日目

海外研修KYOのあけぼの会は、

#### ワークショップIT体験パートⅢ「デジタル写真で遊ぼう」を実施

商工会議所女性会との共同企画。受付開始すぐ満席。

昨年の反省と参加者の希望を取り入れて、午前1回、午後1回の2講座開設。

女性総合センターにある20台のパソコンをフル活用して、オリジナルマグネット作りに挑戦。

それぞれ好みの写真入りマグネット6枚を楽しんで完成しました。

女性副知事サミット  
「レッツ チャレンジ! 女性副知事サミット in 京都」  
コーディネーター 内閣府男女共同参画局長 名取はにわ氏  
滋賀県副知事 安藤よし子  
高知県副知事 吉良 史子  
福岡県副知事 稗田 慶子  
京都府副知事 佐村 知子



海外研修KYOのあけぼの会  
会長 田中 田鶴子

春うららかな季節となりました。会員の皆さまにおかれましてはますますご活躍のこととお喜び申し上げます。

日頃は、当会の活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。また、会員相互の緊密な連携と、強力なネットワークづくりのためのコミュニケーションツールとして発行しております「てるびと」も年々充実した内容で皆様のお手元にお届けすることが出来ますことを大変嬉しく思いますとともに、編集担当の方々に心よりお礼申し上げます。

さて、2003年度の海外研修KYOのあけぼの会も、大変充実した一年であったと思います。特に、湯布院への研修旅行では、内閣府などが

選定する「観光カリスマ」のお一人でいらっしゃる、湯布院商工会会長の溝口薫平様の町づくりに関する貴重な講演を拝聴することができました。観光立国を目指す日本に観光振興と町づくりを一体化する「地域力」を結集されたことは感動でございました。また、京都府男女共同参画推進条例制定に向けた、アンケートの実施にも女性団体として当会からも多くのご意見をいただきました。性別にかかわらず、平等に個性や能力を十分発揮でき、自分らしく生き生きと暮らしていける社会づくりを目指して、今後は条例推進に向けて積極的な協力体制を整えてまいりたいと存じます。

昨今は、めまぐるしく変化する時代ではございますが、豊かな地域社会づくりや女性団体とのネットワークの強化、国際交流の促進等、積極的な活動を展開して、実りのある「海外研修KYOのあけぼの会」の運営と地域社会の発展に貢献してまいりたいと存じます。会員の皆様におかれましてもご理解いただき、より一層のご協力をお願いいたします。

## 2003年度 総会及び研修会

● 日時：平成15年4月21日(月)午後1:30分～ ● 場所：京都府国際センター研修室

### 総会

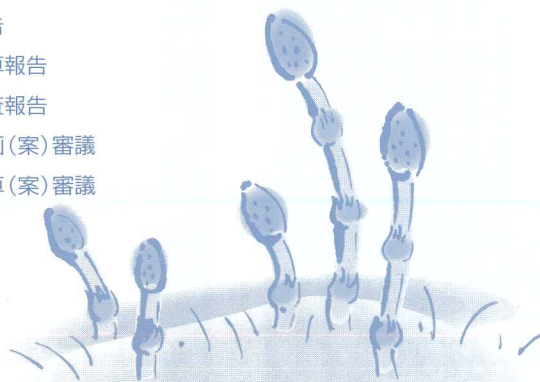
1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 来賓祝辞
4. 議長選出
5. 議事
  - ①2002年度 事業報告
  - ②2002年度 収支決算報告
  - ③2002年度 会計監査報告
  - ④2003年度 事業計画(案)審議
  - ⑤2003年度 収支予算(案)審議
  - ⑥その他

### 研修

#### 韓国研修報告と情報交換

「韓国の女性事情・今を知る」

KYOのあけぼの会韓国研修参加会員



表題「てるびと」は、前京都府知事荒巻禎様の直筆で、インドネシア語(京都府友好国「あけぼの」の意味です。  
京都府に息づく豊かな自然の美しさ、「花」しだれ桜、さが菊。「木」北山杉。「鳥」オオミズナギドリ。を戸塚フランス刺しゅうで表現したものを表紙絵としてごます。

### ■ ワークショップIT体験パートⅢを実施して、過去の2回と特に変わったと感じた点。

- ① リピーターの参加者が増えたこと。
- ② 男性の参加が増えたこと。
- ③ 子どもさんの(小学生)参加もあった。
- ④ 幅広くいろんな方々にこの機会を通してパソコンに慣れ親しんで欲しいので、新しい方にもこの企画を知っていただく工夫をもっとしたいと思います。



### ■ 今回、ワークショップ参加者にアンケートを実施しましたので、まとめて紹介します。

- ① 楽しみながら形のあるものができてよかった。
- ② おみやげに6枚ものオリジナルマグネットが出来て嬉しい。
- ③ 年々レベルアップした内容の企画で楽しみに参加している。
- ④ メール操作やホームページ作りも教えて欲しい。
- ⑤ パソコンを使って、府下の観光がしたい、自分の町も紹介したい。
- ⑥ 来年も続けてほしい。

貴重なご意見に感謝し、今後に生かしたいと思います。

# 2003年度 海外研修KYOのあけぼの会研修事業

平成15年11月7日(金) 於:学研都市木津町&精華町

紅葉の爽やかな秋の一日、京都府の最南端に位置する学研都市京阪奈の丘陵地に、わが国で初めて光をテーマにした「きつづ光科学館」、様々な職業との素晴らしい出会いが山積する「私のしごと館」、そして関西に設置された「国立国会図書館」、を見学しました。それぞれが21世紀のあらゆるハイテクを駆使した建物、諸々の設備を網羅した内部の構造には感歎させられる思いがしました。

## ■ きつづ光科学館ふおとん (きつづ=木津町、ふおとん photon=光量子を表す英語)



きつづ光科学館ふおとん

わが国で初めて光をテーマにした科学館で、日本原子力研究所(原研)関西研究所が日本原子力発電(株)の協力を得て建設されたものです。「光」を通じて未来を担う子どもたちの科学する心を育成し、科学技術への理解と関心を高めるとともに、文化活動の交流の拠点となることを目的としています。

## ■ 私のしごと館

「私のしごと館」は、独立行政法人雇用・能力開発機構が設置・運営する「しごと」に関する世界で唯一の総合施設です。様々な職業の体験などを通じて職業への理解を深める機会をつくとともに、多様な個性と能力を十分に発揮できる職業選択の支援や、職業能力開発のきっかけとなる情報の提供などを行います。

私のしごと館は約3万5千m<sup>2</sup>の延べ床面積があります。この広い館内は次のように分類されています。

### I. しごと探索ゾーン

くらしを支える多種多様な職業(技術・技能)や仕事の組織プレートを「体感」する職業世界との出会いの場です。

### II. しごと体験ゾーン

しごと体験ゾーンは「モノづくり」「サービス」といった様々な仕事の世界を「体験」するゾーンです。

### III. しごと歴史・未来ゾーン

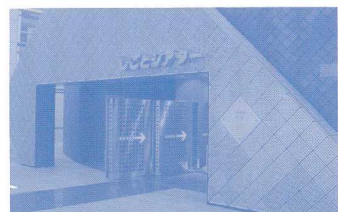
しごと歴史・未来ゾーンはくらしを支えてきた人々の働き方がどのように変化したか、また、未来の仕事がどのようなかを視察するゾーンです。

### IV. じぶん発見ゾーン

じぶん発見ゾーンは人々の仕事を通じて生き方を知り自身の興味を知り、自分自身の生き方を「発見」するきっかけとなるゾーンです。

### V. しごと情報ゾーン

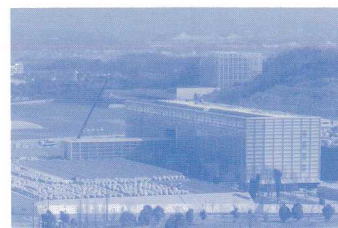
様々な仕事の情報を職業総合データベースから自由に検索して動画などを見ることが出来ます。さらに職業に対する興味や関心を調べることが出来る職業適性診断システムもあります。



しごと探索ゾーン

## ■ 国立国会図書館関西館

国立国会図書館関西館は、年々増加する蔵書によって東京本館の書庫がほぼ満杯となり、新たに収蔵施設を確保する必要性により、近年の急速な情報通信技術の発展に対応した図書館サービスの提供をすることが期待されています。それらの期待に応えるため、京都、大阪、奈良、の三府県にまたがる関西文化学術研究都市内に関西館が設置されました。



国立国会図書館関西館

## 「海外研修KYOのあけぼの会」湯布院研修

平成16年2月16日(月)～2月17日(火) 参加者14名

標高1,584mの由布岳にしっかりと見守られ、814ヶ所の源泉から毎分41,300ℓの湯が沸き出す温泉のまち湯布院をたずねました。老若男女全住民がどのような仕掛け、知恵、創意工夫や努力で多くの観光客を迎え魅了してきたかを学びました。講師は観光立国ニッポンをめざす政府から観光振興・町づくりに貢献「観光カリスマ百選」に選ばれた溝口薫平氏。

見てみたい、聞いてみたい湯布院の旅でした。



由布岳

## ■ 小さなゆふいんの舞台づくり

湯布院商工会長 溝口 薫平氏



湯布院町は、人口12,000人の小さな町です。そう、何も無い小さな町……そこから、湯布院の「まちづくり」は出発しました。

そして、今では、「湯布院をゆっくりと散策したい」「湯布院で温泉に入り疲れを癒したい」などと、全国から、年に約380万人ほどのお客様が、湯布院を訪れてくれるようになりました。

湯布院は小さな盆地です。

何も無い小さな湯布院……それをまず認めて、生きていくしかなかったのです。それがベースでしたから、湯布院は、小さいことにこだわり、小さいことを生かしていくという風土が生まれたのです。

そうです。湯布院は、「小さい」ということを逆にまちづくりの武器にしてきました。小さいことにこだわってきました。小さいがために、いろいろなところに目を配ることができた。小さいがために、小さなコミュニティーを次から次につくっていくことができた。私はそう思うのです。

そして……小さいから、人間らしい気持ちになれるのかもしれない。人間らしい気持ちになれる……“癒される”ということになるのでしょうか。そう、その「人間らしい気持ち」を、湯布院の仲間たちで育てていこうと頑張りました。

湯布院の温泉旅館は、普通の家屋の中に点在していました。だから、日常生活なり子どもの教育環境なりを考えた時に、歓楽街的要素があるというのはよくないのではないかと議論されたのです。そして……生活型観光地という「安全に安心して楽しめる温泉地」を目指そうということになったのです。

これをひとつのテーマとして、湯布院という小さな舞台づくりが始まりました。

「町にとって大切なものは、『緑』と『空間』と『静けさ』だ。『まちづくり』の目的のようなものが見えてきました。

「旅館ありき」でなく、まず「地域ありき」——湯布院は、小さな旅館ばかりです。お互いが、競い合いながら、紹介しあいながら……「湯布院はひとつだ」との印象をつくることができました。これは、湯布院が小さかったから逆にお互いが協力しあった。湯布院では、お互いに、見せ合い、競い合い、いろいろな行事をやっていくのです。地域があつてこそ、旅館やお店が成り立つのです。町がどうあるかということが大事なのです。

湯布院は、農業がベースの町です。農業の方たちに確かな物を作ってもらい、それをどのようにして消費していくか。商店街、旅館などが、農業と一体化になるように努めました。観光というものを確かなものにするのは、やはり農業なのです。

だから、農業の人たちの生産した物を、自分たちで消費していく。「地産地消」といいますか、域内流通というものを通して、確かさを売る。安心感を売る。そのようなことを、湯布院の仲間といつも考えています。

「企業誘致」よりも「人材誘致」——「ゆふいん音楽祭」「湯布院映画祭」など、若者たちのエネルギーを爆発させることは、次のエネルギーにつながります。すべてが受け入れられるものではありません……行政の壁もあります。いろいろな考えの人たちもいます。そのようなことも、互いに認めながらいろいろなことを仕掛けていくことによって、人は育つのだと、私は考えます。

小さな町の舞台では、町の一人ひとりが主人公なのです。

ナンバーワンよりもオンリーワン——町民一人ひとりが湯布院という町に誇りを持つというか、自信をもてるかどうか大切です。そのためには、ナンバーワンではなくて、オンリーワンでなくてはならない。ナンバーワンは、下の者や他人を落とします。オンリーワンは、それぞれの能力なり特色を生かしていくことができる。私たちは……湯布院が小さいという、そのオンリーワンを、実は、誇りにしながら、武器にしながら、やってきたのです。

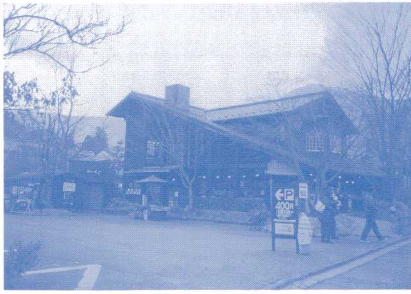
湯布院の若者たちも、やはり、東京や大阪に憧れて、都会へ出ていきました。そこで、多くの体験をする。でも、湯布院に彼らの演じるなんらかの舞台ができれば、彼らは絶対に戻ってきます。

そのためには、やはり、地域の人たちが夢をもって、何かをやらなければならないという思い、そして地域の個性をどれだけ描きえるかということが大切です。そのためには、やはり、地域という舞台をもう一度私は見つめ直す必要があるのではと思うのです。若者たちに小さな舞台の中心になってほしいのです。

小さな舞台で頑張っていくためには、昔からの知恵、新しい知識、情報が必要です。そのためには、いつも全国に向かって情報発信することが大切です。夢を描く過程、夢への行動などを、全国に向かって発信するのです。すると、地域の内外の人たちの中に、新しい友達や、そう、小さな舞台で頑張る仲間ができるはずですよ。

(溝口薫平氏講演より抜粋)

～私たちの見た湯布院のまち～ 参加者のメッセージ



今回の講師、湯布院商工会長溝口薫平氏の講話は60分。熱意あふれる内容で語られ、感動と感激の中、アツという間の時間でした。  
町の再生と活性化に向けて、100年の大計を元に町民一人ひとりの気持ちを尊重し、「緑とやすらぎと空間」を軸として進められた不動の町づくり精神とその事業の数々。私たちが毎日の暮らしの中に忘れていた数々のものが感じとられ、今を生きる孫に何を残すことができるか。貴重な時間でありました。  
理解を求めながら、一步一步大切に積み重ねてこられ、官・民・地の利を活かし、知恵と工夫と共生によって今日の湯布院の発展がある経過と将来展望を伺った貴重な体験談でした。(田中 田鶴子)

溝口薫平様の講演で、すべてに共働の考え方が強調される現在でさえ、行政と住民との共働の難しさを思うとき、30年、40年前に始められたまちづくりの先駆者のご苦労に思いをはせました。  
豊かな湯、壮大な由布岳を住民の共有財産として、資金の無さを武器に、環境を大切に、「みどり・空間・静けさ」をイメージしたまちづくりを目指して親・子・孫三代の長いスパンでの夢の実現をし、小さな名もない湯のまちが全国に発信した姿を目のあたりにしました。次なる第2ステージを期待すると共に、この長い過程で湯布院の女性がどのように関わり、支え、または主人公として活躍してこられたのかをもっと知りたかったです。  
今回の研修も、良い仲間、天候に恵まれ、おいしい食べ物と美しい自然に囲まれて有意義だったことに感謝しています。合掌 (青木 妙子)

数ある温泉の中でも特に訪れたかった湯布院への旅を会員の皆様方と一緒に楽しみました。京都と同じ盆地のひなびた温泉をこれほどまでに発展させられた方々のご苦労をお聞きし、リーダーあつての今日を力強く感じ、又ゆっくりと訪れたく、名残り惜しく帰路につきました。(大橋 嬉子)

一度は訪ねてみたかった湯布院へ！ゆっくり気持ちよいお湯に入り、美味しい夕食に舌つみする。  
商工会長溝口さまの講演の中、全住民挙げて町の活性化事業に敬服！学研都市の中で新しい町づくりに追われている自分達の住む町と比較し地域に帰り考え、見直してみたい！ (早田 和代)

ゆっくりゆったりの旅で心和やかにになりました。NHK放映で見ましたので、溝口さんのお話わかりやすく思いました。湯布院の舞台づくり全国発信、楽しかったです。(松石 三重子)



自然が失われていないまち湯布院  
自然が生きているまち湯布院  
自然が守られているまち湯布院  
地域住民の住みよい環境のまち湯布院は、訪れる人を癒してくれるまち湯布院でした。失われつつある日本のふるさとが湯布院に大切に残っていた。  
湯布院のまちづくりに、女性のニーズが具体的にどのような形で組み込まれて来たのか？ ポジティブアクションは？ 勉強会で聞けなかった。そこで、翌日まちを歩いて、私なりに探してみると、表で行動しているのは圧倒的に若い女性も含めて女性が多かった。自主性をしっかり持つての行動であれば、女性パワーを認めたい。(山野上 里子)

大分湯布院一泊二日の研修旅行に参加して  
好天に恵まれ、溝口薫平さんのお話から、まち全体が協力して湯布院のまちを育て、今日に至ったこと、そしてその現実を目のあたりにして、私たちも日々、良きにつけ悪きにつけても協力することの大切さを学ぶことができ、更に参加者の皆さんとの交流を深め、コミュニケーションを持つことができ、自分にはない皆さんのパワーをいただいた旅でした。本当にありがとうございました。(森 芳子)



何年もかけて未来を見つめながら、ゆふいんの方向性をリードされた溝口薫平会長のリーダーシップに感心しました。身近なできることからやっていくことの大切さを再確認しました。この研修旅行に参加させていただいたこと、田中先生と素敵なお仲間と一緒にできましたことに感謝します。(大野 三恵子)

KYOのあけぼの会から九州のゆふいんへ行くお話を聞いて、瞬間パツと目の前が明るくなった。皆さんに会えるよるこび・・・姉妹との再会のように嬉しかった。これが神様からの贈り物と思った。皆さんの親切と愛情、嬉しかった。如何にして恩返しをしたらよいのだろう。皆さんの温かさを素直に戴くことが一番大切なことだと思った。  
食事のときに、京都への感謝をどれ程いただいているかというお話もあった。私は京都で生まれ、京都で育った。戦後すぐ西陣織物始めた。京都の和装産業として世界に誇れる民族衣装を作るため、京都のためにも力の限り努力したいと思っている。(高島 シズ子)

12,000人の町を一つにまとめた溝口薫平様のお話は抜群の説得力がありました。基本理念が明確であったこと、目的に向かって町の各層の人々の心をつなげたこと、そして何よりも自分の町湯布院を愛する心があったことが、この町が今日を迎えた理由であると思います。京都もかつては全国の注目を集めた時期がありました。今の京都に生きる者として何をすべきかを考えるときが来ていると思います。(高木 清子)

14人の方々と親しくお話ができたこと、美味しい冬の味に舌鼓。九州の地元でしか味わえないものが堪能できたこと。湯布院のまちづくりリーダーシップのある方と、それに賛同できる人があって成し得る大切なことを教えていただいたこと。一泊二日の旅でしたが、中身の濃い有意義な今回の研修でした。次回を楽しみに、健康維持に心がけたいと思います。会長さまはじめ、役員の方々に心より感謝申し上げます。(金子 啓子)

講演をきいて  
名の知られていない小さな温泉街から全国発信へとつながる舞台づくりができた今日、大きな由布岳から広がる裾野のすばらしい景観、それは(静か・緑・空間)をとことん重視され、「環境」を守ること、そのまちに住む「人の参画」(官民業種一体化)が地域活性化への成功となったと聞きました。長年かけての一貫性で培われた影の努力を痛感することができました。(一瀬 裕子)

穏やかな盆地が広がる中、中程に小高く盛り上がっている由布岳の姿は町のシンボルになっている様でした。澄み切った空気の新しさに加えて、九州の自然が醸し出す大らかな安らぎの空間が旅行者を暖かく迎え入れる保養地湯布院にすっかり魅せられました。若いとき九州に居住していた頃には、まだその名を知る人の少なかった湯布院が町おこしの様々な試みが効を奏して、今では別府を凌ぐ魅力的な温泉地に発展していることに驚異の眼を見張りました。自然を壊さず、自然と人との調和を考えて振興計画が練り上げられたこと、町民全体の共働・連帯の絆をしっかりと結んで来たこと等、溝口薫平氏の湯布院舞台づくりの話は大変示唆に富んで、勉強になりました。(武田 公子)

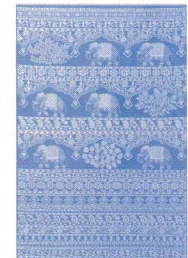
旅は天候に左右され、旅は人や風景との出会いで、その印象を強くする、まさにその通りであった。  
溝口会長からは、冬季には珍しく良い天気だったことを「晴れを持ってきてくださった皆様に感謝したい」と嬉しい挨拶をいただいた。  
お話の中で、お互いに押し上げて協力して心を合わせた地域の連帯感の様子、手の内を見せ合った旅館経営、料理人のレシピをオープンにした料理研究会など、前向きな地についた取り組みが心に残った。  
由布岳を眺めながらの温泉さんまい、おいしい食事、あれこれ楽しいゆふいん散策、ホッと心がいやされるのを実感したのは、住む人たちの心のゆたかさあふれているからなのだろう。  
又、機会があれば、四季折々の由布岳を訪ねてみたい。(岡本 薫)



由布岳をバックに参加者

KYOのあけぼの会会員高島シズ子氏受賞 (高島織物株式会社社長)

高島織物株式会社、高島シズ子社長が平成15年度西陣織大会において優秀賞に輝かれました。受賞を心からおよろこび申し上げるとともに、今後とも伝統産業振興発展のため一層のご活躍を期待いたします。



受賞作品



## 男女共同参画社会の推進にむけて

京都府府民労働部女性政策課

男女が喜びも責任も分かち合い、自分らしくいきいきと暮らせる男女共同参画社会の実現は、21世紀の心豊かな京都府づくりの重要課題です。

京都府では、これまでから、少子高齢化の進展や家庭や地域を取り巻く社会環境の変化に対応し、男女がその個性と能力を十分に発揮することを支援するため、様々な施策を実施しております。

このような取組を、府民や事業者の皆様と一体となって、より総合的・計画的に推進していくためには、その拠り所となる条例が必要であることから、このたび、家庭や地域、仕事等で頑張っておられる女性の皆さんが元気づけられたり、また、勇気づけることができるよう「男女共同参画推進条例」を制定したところです。

併せて、内閣府事業の活用も図る中で、女性総合センターをチャレンジ支援の拠点施設と位置づけ、各種機関とのネットワークのもとに、女性がより幅広い分野で積極的にチャレンジしていくことを支援します。

今後も、皆様の御意見をお伺いするなど、多くの皆様の御理解と共感を得ながら、条例に基づき、地域に根ざした男女共同参画の着実な推進に努めてまいりたいと考えておりますので、一層の御協力をお願いいたします。

### 平成15年度 京都府施策トピックス

- ◇ 「男女共同参画推進条例案」の議会上程  
平成15年 9月 1日 京都府女性政策推進専門家会議から提言  
平成15年12月18日～平成16年1月18日 条例骨子案に対するパブリックコメント実施  
平成16年2月 府議会上程
- ◇ 新KYOのあけぼのプランの推進  
審議会等への女性委員の登用推進等（目標1/3）
- ◇ KYOのあけぼのフェスティバル開催  
女性副知事サミット  
男女共同参画の視点に立った啓発、意識の高揚と関係団体のネットワーク促進  
・10/18（土）、19（日） 京都テルサ
- ◇ KYOのあけぼの大学講座の開催  
女性問題についての学習、女性のエンパワーメント支援、男性の育児への参画促進  
・地域講座（南部・北部）、男性学講座、女性と労働を考えるセミナー等
- ◇ 京都府女性の船  
地域の女性リーダーの育成  
・6/6～10 北海道（舞鶴～小樽 フェリー乗船）
- ◇ ドメスティック・バイオレンス対策  
被害者の支援や防止対策  
・被害者のグループカウンセリング、相談事業等  
・DVサポートラインの設置

## 編集後記

会員の皆さまにはお変わりなくお元気で活躍のこととおよこび申し上げます。会報てるびっとをお届けする時がやってきましたが、この頃つくづく時の流れの速さを実感いたしております。世の中の動きや情報が目まぐるしく変化していくからでしょうか。

さて、今年度は住民のパワーと行動力でまちづくりを成功させた湯布院を訪ねることができました。静か

な自然環境と文化を大事にした町づくり、訪れた人の心身双方をいやす小さいが巧みな仕組み、さりげなく趣向を凝らした舞台など、魅力あふれる湯布院でした。そして多様になった私たちの欲求を満たす術を心得た湯布院の人々にもたくさん出会いました。

また次の機会には1人でも多くの会員の皆さまとご一緒できることを願っています。

海外研修KYOのあけぼの役員一同